

能登半島地震・北陸新幹線敦賀開業に伴う 3月の北陸地域における宿泊稼働指数



2024年4月3日

富山国際大学 大谷友男研究室

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

今回の発表について

- 能登半島地震発生後の北陸の宿泊施設の稼働状況を宿泊予約サイトの情報を用いたビッグデータ分析により明らかにし、発表。
<https://www.tuins.ac.jp/2024/02/14174/> (1月の動向・2月7日発表)
<https://www.tuins.ac.jp/2024/03/14490/> (2月の動向・3月7日発表)
- 1月は風評被害等による観光客減少の影響が見られる一方、金沢や高岡といった能登半島に近い都市では、復旧関係者等の宿泊需要が旺盛で、宿泊稼働指数は高水準であることがわかった。一方、2月は観光客減少の影響が緩和し、復旧関係者の宿泊需要も若干落ち着いた。
- 今回の発表では、3月16日の北陸新幹線敦賀開業や北陸応援割のスタートの影響がある中で、3月の宿泊客の動きにどのような動きがあったかを明らかにする。

宿泊稼働指数について

- 全国のホテル・旅館における日次の空室水準を宿泊予約サイトのビッグデータをもとに指数化したもので、**前日までの実績**が取れることが特徴。
- 観光庁「宿泊旅行統計調査（速報）」では、稼働率が公表されているが、県別データは各月末に前々月の結果が発表されており、**2か月のタイムラグ**がある。
- 原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく（算出方法等は次ページに記載）。
- 観光庁が公表している客室稼働率の結果とほぼ連動しており、速報性の高い数値として活用可能。
- 直近のデータを追うことができることから、政府の「月例経済報告等に関する関係閣僚会議」の資料にも活用されるなど（2021年2月ほか）、最新の景気動向を分析するデータとして活用されている。

宿泊稼働指数の算出方法

■日次（原数値）

$100 - \{ (\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}) \div (\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}) \times 100 \}$

※ 最小空室数が0、最大空室数が150、当日空室数が40の場合、数値を代入すると以下のようになる。

$$\begin{aligned} & 100 - \{ (40 - 0) \div (150 - 0) \times 100 \} \\ & = 100 - (40 \div 150 \times 100) \\ & = 100 - 26.7 \\ & = 73.3 \end{aligned}$$

※ 当該地域において、宿泊施設が過去365日以上連続して立地・稼働していると判定される場合に限り算出

北陸地域全体の傾向

3月は福井県で指数が上昇

- 2024年3月の宿泊稼働指数は、1~2月に続き富山県、石川県で高水準。

→ 依然として復旧需要が高いと考えられる

- 福井県で指数が上昇。富山県、石川県と同水準に。

→ 北陸新幹線敦賀開業の効果と考えられる

※ 能登半島は施設が休業中のため数値なし

北陸地域の宿泊稼働指数（平日）

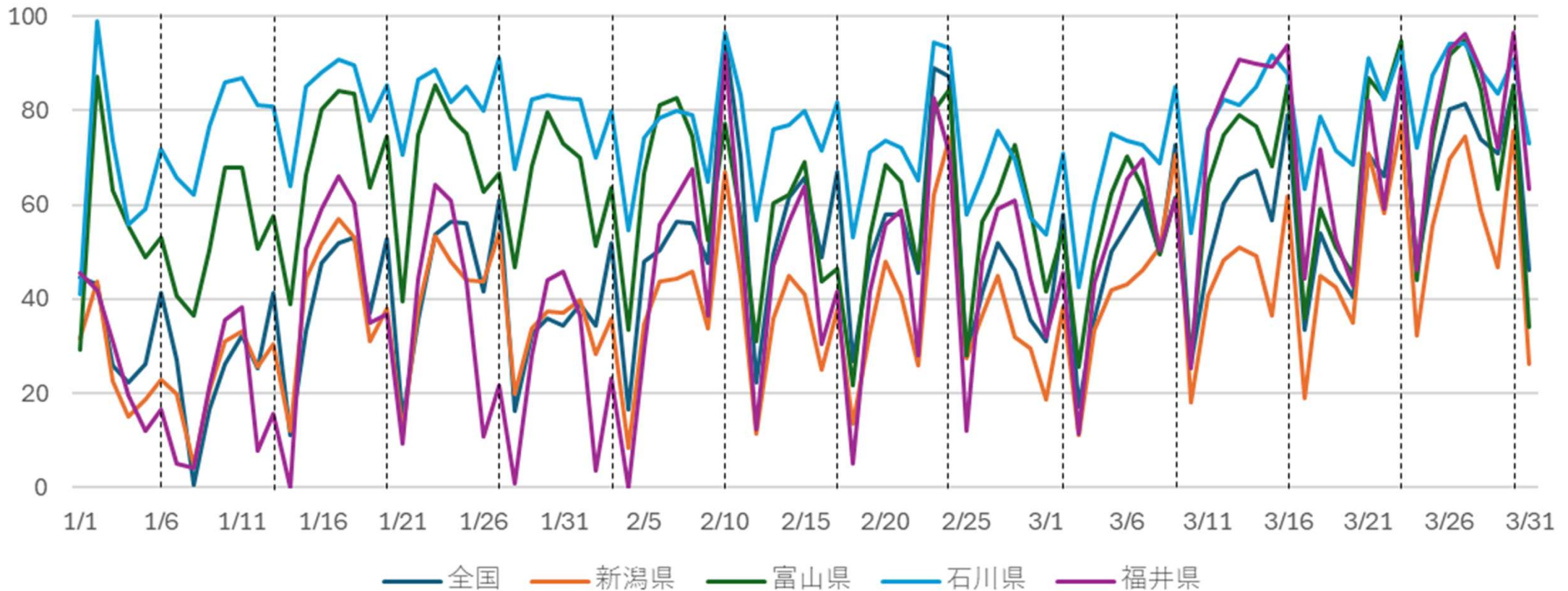
	2019年 3月	2024年 1月	2024年 2月	2024年 3月	コロナ前 同月差	前月差
新潟県	47.1	37.8	37.3	49.1	2.0	11.8
富山県	35.3	69.3	63.1	69.4	34.1	6.3
石川県	47.7	81.5	72.9	79.6	31.9	6.7
福井県	59.8	39.4	46.6	71.9	12.1	25.3
全国	58.5	37.8	49.6	59.5	1.0	9.9

北陸地域の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年 3月	2024年 1月	2024年 2月	2024年 3月	コロナ前 同月差	前月差
新潟県	41.1	26.0	38.2	42.3	1.2	4.1
富山県	27.2	52.8	52.4	54.0	26.8	1.6
石川県	45.8	72.8	75.2	72.9	27.1	▲2.3
福井県	53.2	19.1	39.4	56.3	3.1	16.9
全国	51.2	31.7	55.4	53.8	2.6	▲1.6

3月中旬以降、北陸3県で上昇傾向

能登半島地震後（2024年1月～）の北陸地域の宿泊稼働指数



注) グラフ中の点線は土曜日 (以下同様)

復旧関係者等の需要は高止まり、観光客も復調

- 富山県、石川県、福井県の3月の宿泊稼働指数は、高水準であった。
- とくに富山県、石川県は、コロナ前の同月（2019年3月）と比較して、平日、土休日ともに20～30ポイント以上の差がある。これは**依然として復旧関係者や二次避難者による需要が高い**ためと考えられる。
- 一方、福井県は、平日・土休日ともに前月比で高い伸びを示しており、平日に関してはコロナ前の同月よりも高い伸びを示していることから、**北陸新幹線敦賀開業の効果**が出たと考えられる。
- 北陸新幹線敦賀開業と同じ日（3月16日）から始まった「北陸応援割」の影響に関しては、初期の段階では予約可能な枠に限りもあったことから、応援割を利用した観光客が指数を押し上げるまでには至らなかったのではないかと考える。

県別・主要都市の傾向

上越市は平日・土休日ともにコロナ前より高水準

- 上越市は、平日・土休日ともにコロナ前の同月よりも指数が10ポイント以上上昇。
- 妙高市が平日・土休日ともに前月差マイナスになっているのは、同市がスノーリゾートとして評価されており、冬がハイシーズンであるためと考えられる。

新潟県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年 3月	1月	2024年 2月	3月	コロナ前 同月差	前月差
新潟県	47.1	37.8	37.3	49.1	2.0	11.9
新潟市	56.8	36.6	34.2	54.3	▲ 2.5	20.1
妙高市	40.2	65.7	73.1	63.9	23.7	▲ 9.2
上越市	38.3	32.1	34.1	49.1	10.8	15.0
佐渡市	62.2	65.2	80.1	81.1	18.9	1.0

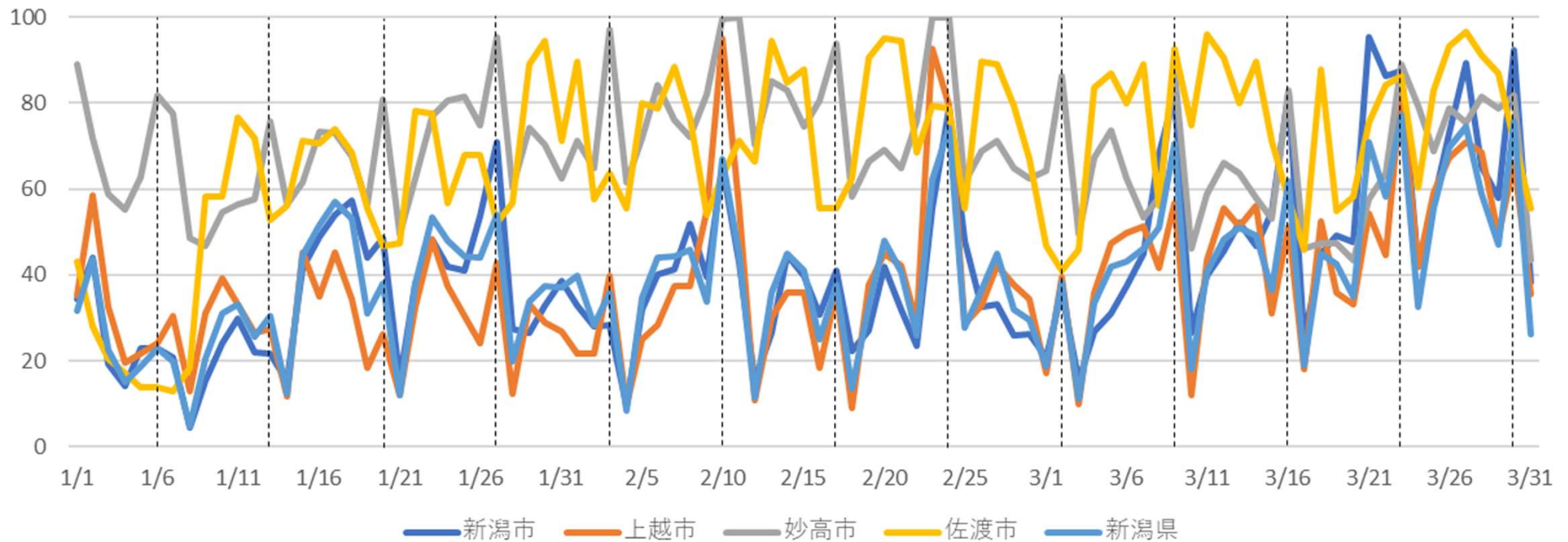
新潟県の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年 3月	1月	2024年 2月	3月	コロナ前 同月差	前月差
新潟県	41.1	26.0	38.2	42.3	1.2	4.1
新潟市	50.9	28.8	40.6	52.3	1.3	11.6
妙高市	44.1	70.5	77.5	66.8	22.7	▲ 10.6
上越市	24.2	27.2	45.7	40.6	16.4	▲ 5.1
佐渡市	46.0	37.4	65.1	62.6	16.6	▲ 2.5

上越市は3月後半に指数が上昇傾向

- 上越市は宿泊稼働指数そのものは決して高くはないが、3月後半に指数が上昇傾向にある。

能登半島地震後（2024年1月～）の新潟県内各市の宿泊稼働指数



富山県…高岡市は依然高水準

- 高岡市は平日の宿泊稼働指数が依然として90を超える高水準。
- 富山市、高岡市ともに宿泊稼働指数は平日 > 土休日。
- 宇奈月温泉を抱える黒部市は指数が上昇傾向。

富山県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年 3月	2024年 1月	2024年 2月	2024年 3月	コロナ前 同月差	前月差
富山県	35.3	69.3	63.1	69.4	34.0	6.3
富山市	37.9	71.7	64.8	67.7	29.8	2.9
高岡市	43.8	95.4	90.0	94.0	50.2	4.0
魚津市	36.3	46.4	39.4	50.6	14.2	11.2
黒部市	69.1	27.7	45.8	64.1	▲ 5.0	18.4

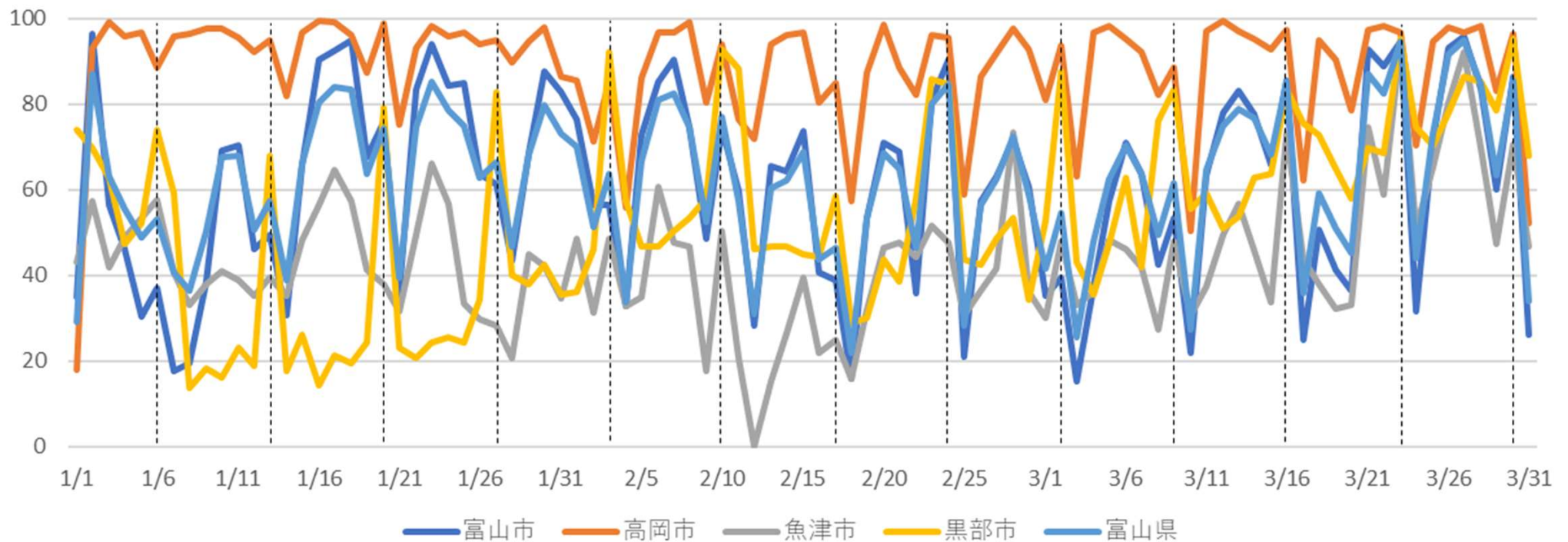
富山県の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年 3月	2024年 1月	2024年 2月	2024年 3月	コロナ前 同月差	前月差
富山県	27.2	52.8	52.4	54.0	26.8	1.6
富山市	31.2	46.6	49.9	46.9	15.7	▲ 3.0
高岡市	32.4	85.6	77.7	77.3	44.9	▲ 0.4
魚津市	16.9	38.9	32.3	52.1	35.2	19.7
黒部市	78.1	55.4	67.9	74.6	▲ 3.5	6.7

黒部市の土曜日の稼働指数は上昇傾向

- 黒部市の土曜日の宿泊稼働指数は、2月に比べて上昇傾向にあることが認められる。

能登半島地震後（2024年1月～）の富山県内各市の宿泊稼働指数



石川県…依然として各市とも高水準

- 石川県内は各市とも平日、土休日ともに宿泊稼働指数は高水準。
- 復旧関係者による宿泊や二次避難者の滞在が指数を上げていると考えられる。

→ コロナ前の同月と比較しても20~30ポイント台の差があることからそれがうかがえる

石川県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年 3月	1月	2024年 2月	3月	コロナ前 同月差	前月差
石川県	47.7	81.5	72.9	79.6	31.9	6.8
金沢市	49.7	85.8	69.4	77.6	27.9	8.1
小松市	49.0	71.9	75.0	81.6	32.6	6.6
加賀市	38.6	55.2	62.5	70.8	32.2	8.3
白山市	69.5	92.3	96.2	93.8	24.3	▲ 2.3

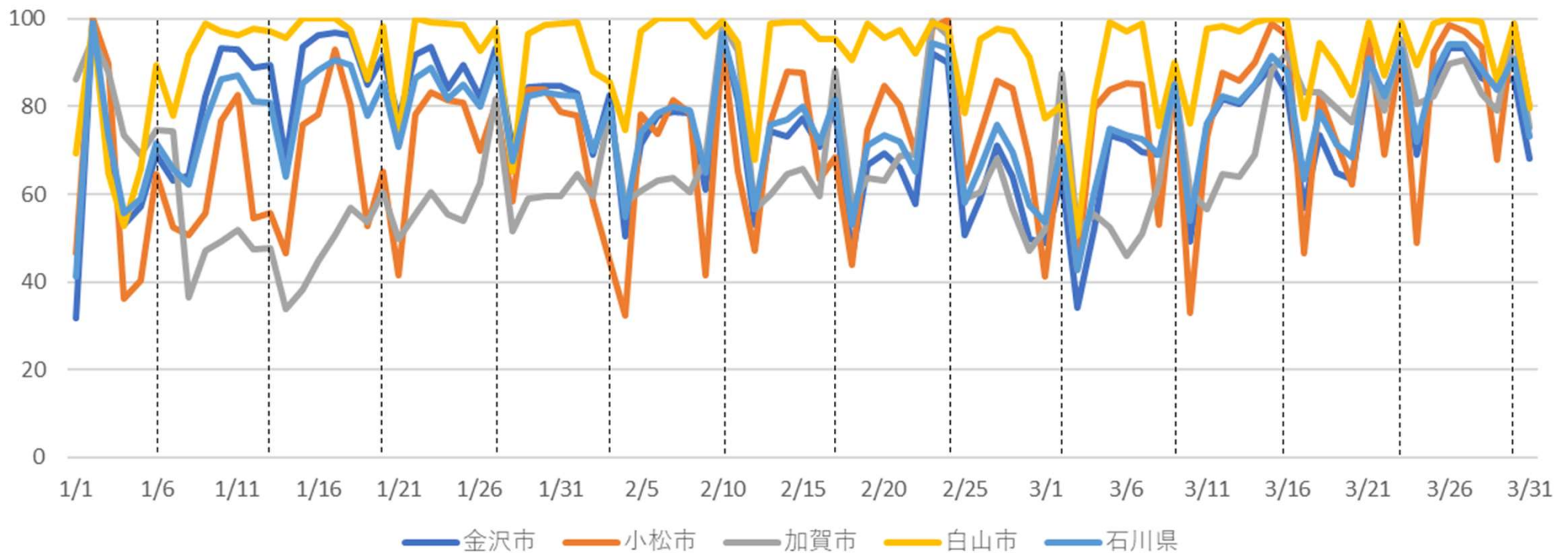
石川県の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年 3月	1月	2024年 2月	3月	コロナ前 同月差	前月差
石川県	45.8	72.8	75.2	72.9	27.1	▲ 2.4
金沢市	45.0	73.7	72.2	68.0	23.1	▲ 4.2
小松市	39.1	59.3	65.6	69.1	30.0	3.5
加賀市	54.8	65.0	78.6	80.7	25.9	2.1
白山市	55.1	84.9	88.4	84.0	28.9	▲ 4.4

高稼働が続く中、3月中旬以降に再上昇

- 各市とも平日・土休日ともに高稼働が続いているが、2月に若干低下した金沢市の宿泊稼働指数は3月中旬以降再び上昇している。

能登半島地震後（2024年1月～）の石川県内各市の宿泊稼働指数



福井県…新幹線開業効果といえる

- 福井県は各市とも3月に宿泊稼働指数が上昇、高い水準となっている。
- コロナ前の同月（2019年3月）差を見ても、上昇幅が大きい。
- 3月の高稼働は、北陸新幹線敦賀開業の影響によるものと考えられる。

福井県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年 3月	2024年			コロナ前 同月差	前月差
		1月	2月	3月		
福井県	59.8	39.4	46.6	71.9	12.0	25.3
福井市	62.2	46.4	50.8	81.1	18.9	30.2
敦賀市	72.6	47.7	40.9	73.6	1.0	32.7
あわら市	56.1	62.8	70.8	87.0	30.9	16.2
坂井市	60.6	64.3	76.2	93.2	32.6	17.0

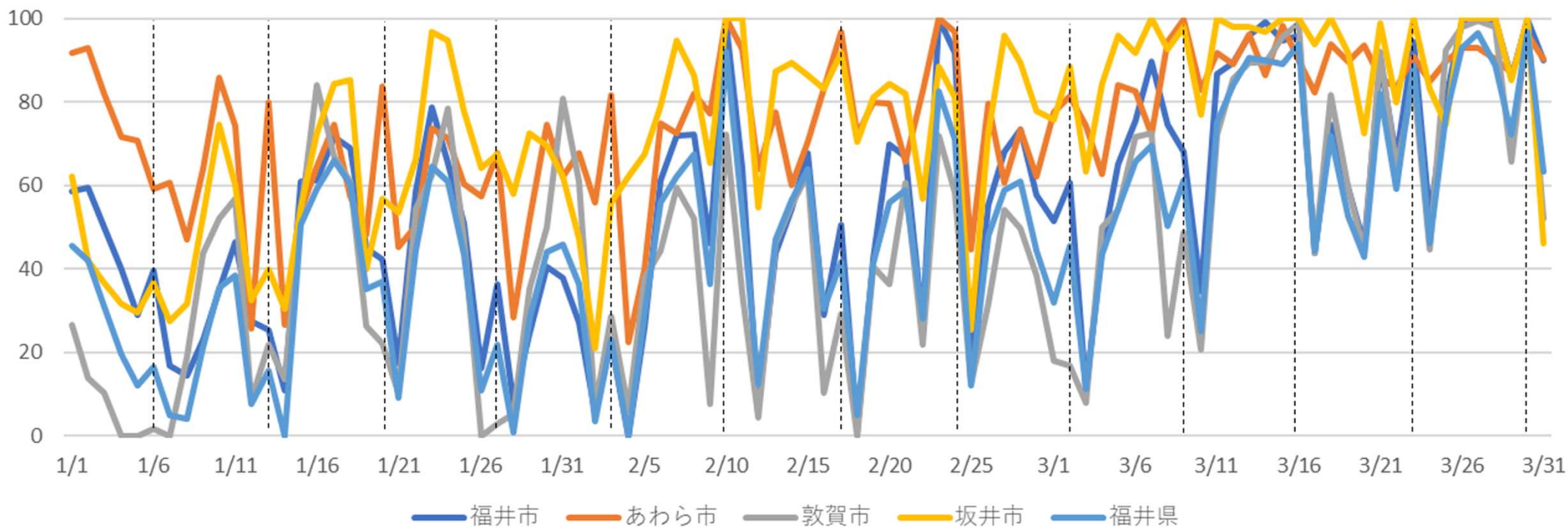
福井県の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年 3月	2024年			コロナ前 同月差	前月差
		1月	2月	3月		
福井県	53.2	19.1	39.4	56.3	3.2	16.9
福井市	51.6	31.6	50.3	63.2	11.6	13.0
敦賀市	47.3	13.4	35.3	50.9	3.6	15.6
あわら市	75.1	63.8	71.3	87.8	12.7	16.5
坂井市	63.2	45.3	66.2	83.8	20.6	17.6

3月中旬以降は高水準で推移

- 3月中旬以降、各市とも平日を含め高水準で推移しており、北陸新幹線敦賀開業の効果が現れていると考えられる。

能登半島地震後（2024年1月～）の福井県内各市の宿泊稼働指数



北陸新幹線敦賀開業・北陸応援割の影響

福井県では新幹線開業効果で上昇

- 3月の宿泊稼働指数を、新幹線開業前（～3月15日）と開業後（3月16日～）で比較。
- 3月後半は多客期であり、全国的に開業後の方が数値が高いが、富山県と石川県は「のびしろ」が限られるため、上昇幅が比較的小さい。
- 一方、開業前でも比較的高い値を示していた**福井県では上昇幅が大きく、新幹線開業効果があった**といえる。
- 新幹線開業と応援割が同時だったが、応援割は枠に限りがあったため、**応援割利用者による上昇は限定的**と考える。

北陸新幹線敦賀開業前後の宿泊稼働指数

	開業前	開業後	前後差
新潟県	39.9	53.1	13.2
富山県	57.9	69.5	11.6
石川県	71.5	82.6	11.0
福井県	59.2	73.1	13.9
全国	50.3	64.2	13.9

北陸新幹線敦賀開業前後の宿泊稼働指数（新潟県）

	開業前	開業後	前後差
新潟市	41.8	64.6	22.7
妙高市	39.9	51.9	12.1
上越市	63.2	66.6	3.4
佐渡市	74.9	74.2	▲0.7

黒部、加賀、敦賀は開業後に20pt以上上昇

- 開業前から高い値を示していた都市は上昇幅は小さい。
- 黒部市や加賀市といった温泉地を抱える都市、終点となった敦賀市では、開業後の値の上昇幅が20ポイント以上と大きい。

北陸新幹線敦賀開業前後の宿泊稼働指数（石川県）

	開業前	開業後	前後差
金沢市	68.5	79.5	11.0
小松市	73.2	80.9	7.7
加賀市	63.2	84.8	21.6
白山市	88.0	92.6	4.6

北陸新幹線敦賀開業前後の宿泊稼働指数（富山県）

	開業前	開業後	前後差
富山市	53.7	66.5	12.8
高岡市	88.3	87.9	▲0.4
魚津市	40.9	60.7	19.8
黒部市	58.5	76.6	18.1

北陸新幹線敦賀開業前後の宿泊稼働指数（福井県）

	開業前	開業後	前後差
福井市	69.4	79.7	10.3
あわら市	84.9	89.6	4.7
敦賀市	54.4	76.0	21.6
坂井市	90.6	89.1	▲1.4

結果のまとめ

復旧需要は落ち着き、開業効果で押し上げ

- 能登（氷見市を含む）は、地震の影響で宿泊施設が営業を休止していることからデータを取ることはできず。
- 3月は福井県の宿泊稼働指数も上昇。**北陸新幹線敦賀開業の効果が表れている**と考えられる。
- 1・2月に続いて石川県や富山県では宿泊稼働指数は高水準で推移。金沢市や高岡市などが依然として能登の復旧・復興の拠点となっているが、**復旧需要は若干落ち着き、新幹線開業や応援割の効果が押し上げた**と考えられる。
- 応援割の効果に関しては、初期の段階では枠に限りがあったことから利用者による押し上げは小さかったと考えるが、**応援割の周知を通じた宣伝効果が新幹線開業効果と相まった**と考えられる。

一番の被害を受けた能登半島の復興に向けて

- 能登...被害も大きく、被災から3か月でようやく復旧が進んできた

宿泊施設が復旧し、営業再開できたとしても、
金沢や高岡などに流れている復旧関係者が流入



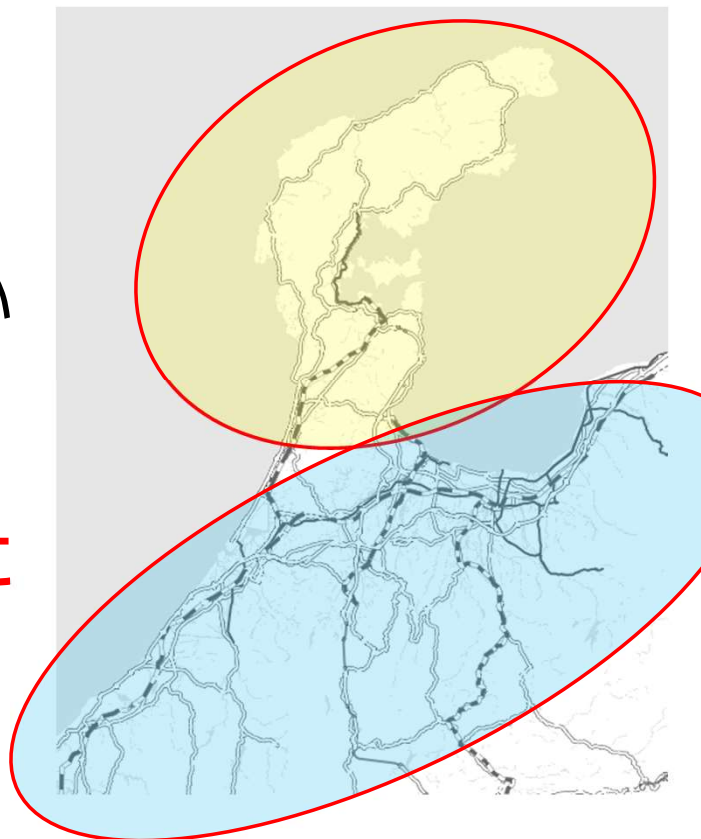
復旧優先であり、当面は観光という状況にない

一方で、自治体からの応援職員や復旧作業従事者の引き上げや
県外宿泊施設の二次避難者受け入れが終了へ



能登の復旧・復興につながるような観光振興に

例) 宿泊施設や飲食店など観光客が訪れる場所での能登製品の積極利用
公的機関による能登産品を積極利用している施設や店舗の情報提供
旅行者側も能登産品を利用している施設や店舗を積極的に利用



能登の復旧が進んだ時こそ「旅して応援」で息の長い復興支援を

お問い合わせ

富山国際大学 現代社会学部 観光専攻
准教授 大谷友男

TEL : 076-483-8000 (代)

E-mail : totani@tuins.ac.jp